

2016/11/3~9

姉妹都市 交流 祝50周年! アメリカ合衆国バイセリア市をお迎えして



訪問団歓迎式にて
2016/11/4



金物まつりステージにて
2016/11/6



姉妹都市提携50周年を記念し、姉妹都市バイセリア市から11名の訪問団が11月3日～9日、三木市を訪れました。

多くの方々との交流の下、三木市にもたくさんのかけがえのない思い出を残してくださいました。(関連記事はP2・3に掲載しています。)

バイセリア市 グラー副市長あいさつ(抜粋)



我々の姉妹都市関係は、三木市出身の武原誠郎氏がバイセリア市のセコイヤ大学に留学したことがきっかけでした。武原氏のご尽力により、1966年、両市が姉妹都市提携を結びました。それ以降、両市の代表者や学生の交流が行われ、2011年に三木市の代表者がバイセリア市を訪問されたことを今でも懐かしく覚えております。

来春皆様バイセリア市にて現在建設中の『三木公園』の奉獻式にご参加くださるのを楽しみにしております。姉妹都市交流50周年を迎えた今、文化が違っても、私たちはお互いに平和と相互理解を通じた関係作りを望んでおります。

皆様のおもてなしやご親切に心から感謝申し上げます。

三木市 藪本市長あいさつ(抜粋)



この記念すべき50周年の年に、バイセリア訪問団の皆様には、三木市最大の産業と文化の祭典である「金物まつり」にご参加いただき大変光栄に思います。

この永きにわたる両市の深い友好関係は、単に都市と都市との結びつきだけでなく、市民同士の絆であり、半世紀という姉妹都市交流においても極めて長い歴史をもつ人と人との友情によるものであると強く感じております。今後とも、この50年間で培ってきた友情と信頼の絆がより一層強まり、さらには新しい世代へとそのバトンを引き継ぐことができるよう、両市の皆様と共にこの貴い交流の輪を広げてまいりたいと考えております。

バイセリア市民訪問団の皆様にも、金物まつりの雰囲気をご満喫いただければ幸いです。

姉妹都市交流 The Golden Anniversary 50周年を共に祝う

姉妹都市交流50周年記念パーティ

2016/11/6 中央公民館



秋空に響く吉川錦太鼓の音。着物姿のバイセリア市民訪問団11名を含む約90名の参加者が、食事や歓談を満喫されました。

初田稔三木市議会議長による英語での歓迎の言葉、グブラー副市長による日本語での訪問団代表スピーチと続き、両市の副市長による「乾杯!/Cheers!」の掛け声が会場に響き渡りました。太鼓体験や高齢者大学大道芸クラブのパフォーマンスなど、訪問団の方たちに日本文化を体感していただき、更に、人生初の餅つきを体験していただきました。

最後に松本教育長による閉会のあいさつでパーティの幕を閉じました。半世紀に渡る絆を感じ、国際交流の喜びを参加者全員が感じた2時間となりました。

三木市を見学 ～志染中学校・岡田金属工業株式会社～

2016/11/4

志染中学校では三木市紹介プレゼンテーション、全校生徒による日本文化紹介ワークショップにて紙風船や習字などを体験しました。

岡田金属工業株式会社では、製造の工程を見学。50年前、バイセリア市から姉妹都市交流に関わられた前社長に贈られた歴史の重みを感じる記念額を拝見しました。最後に50周年と刻印された商品を訪問団へ記念品として贈呈していただきました。



志染中学校にて手裏剣Get!



岡田金属工業(株)にて記念品をいただきました

広島旅行 ～平和記念公園そして宮島～

2016/11/7・8



「Amazing! Great! わあすでい!」と広島風お好み焼きに舌鼓を打つ訪問団。その後の平和記念公園では、英語語り部の小倉桂子様から自身の体験を交えた戦争中のお話を聞き、資料館内を見学しました。戦争・原爆の恐ろしさを肌で感じ、平和の尊さを再確認しました。

2日目は、宮島観光。まず世界遺産の厳島神社を見学し、その後の自由行動では人力車、浴衣、お寺参りなど、日本文化に大いに親しんでいただきました。



バイセリア訪問団 ～交流記～

Just days before coming to Japan, Eric and I went to Riverside, California, not far from Visalia. I hiked up Mt. Rubidoux, a small mountain near the city center. Close to the top is a Peace Tower. On the bridge of the tower is a bronze plaque. The words on the plaque helped prepare me for some of the lessons I would learn in Japan.

The plaque reads: "During the Equestrian Games of the 10th Olympiad, Lt. Col. Shunzo Kido turned aside from the prize to save his horse. He heard the low voice of mercy, not the loud acclaim of glory."

You have been our teachers of the noble characteristic of mercy and other traits like it: honor, patience, respect, endurance, humility and kindness. Thank you for being such fine examples. We have learned much from you all about the heart of Japan.



要約: 今回の訪問の数日前、夫エリックとバイセリア近郊のリバーサイドを訪れたとき、偶然第10回オリンピック大会の記念碑を見つけました。乗馬で出場していた「城戸俊三選手は愛馬を救うため栄光を捨てて下馬した。彼は称賛の喝采ではなくあわれみと慈しみのささやきを聞いたのだ。」あなた方はこの碑に書かれている、日本人としての慈悲深さ、我慢強さ、親切さといった日本の心を私たちに教えてくださいました。

ローリー フロスト
バイセリア訪問団 **Lorry Frost**
ホームステイ先 A1832 田中 瑠美

我が家に副市長さんが来られると知り、初めは不安でいっぱいでした。しかし、実際にお会いすると、とても気配り上手な方で、片言の日本語と英語で、気さくに話しかけてくださり、料理、姫路観光、些細なことでも笑顔で喜んでくださいました。

私が出かける用意でバタバタしていると、ソファに座って子どもたちに絵本を読んでくださっているのを見て、今回受け入れをしてよかったと心から思いました。グブラーさんがバイセリア市民にも愛される理由がよくわかります。我が家の10歳、8歳、3歳の子どもたちもわからない英語に耳を傾けながら交流を楽しみ、とても貴重な経験になりました。



ご自宅のお庭は2エーカー(約8,000㎡)もあり、30~40本もの果物などの木があるそうです。金物まつりで買った剪定鋸を使うのを楽しみにされていました。「次は、ぜひうちへ。」とご招待してくださったので、いつか家族でバイセリア市を訪れることができたらいいなと話しています。

ホストファミリー
A1729 坂下 美弥

2016/8/29

日本語ボランティア育成講座

講師 **水野マリ子さん**
(神戸大学 名誉教授)

やさしい日本語講座を受講して

初めに、「やさしい日本語」とはどのようなものか、どのような取り組みが必要なのかなどについてわかり易い説明がありました。職員の方々、日本語ボランティア、約25名が参加しました。

具体的な場面や文章に即して模範解答を学び、その後、ワークショップ形式でグループごとに与えられた課題を「やさしい日本語」に変換する取り組みをし、その後、結果を発表し合いました。それぞれについて講評をしていただき、普段使っている言葉をやさしい日本語に変換する難しさを実感する良い機会となりました。



A1489 澤田 静香

子ども英語暗唱大会

共催：三木市教育委員会
兵庫県立三木高等学校

小学生の英語暗唱大会で、約40名の出場者が日頃の英語の力を競いました。2回目となる今年は、低学年の部を新設し、更に充実した大会となりました。

審査員には小学校のALTや学識者に、また、司会進行には三木高校国際総合学科の生徒4名にお願いしました。結果は次の通りです。



低学年

大賞 坪田沙々
教育長賞 大西悠仁

国際交流賞 坂下仁那

(敬称略)

高学年

大賞 井筒大輔
教育長賞 中西奏恵

国際交流賞 坂下祐弥

英語暗唱大会に参加して

私がこの大会に参加したのは、先生の勧めと小学校最後に挑戦してみようと思ったからです。覚える事が苦手で、最後まで語りきれぬのか不安でしたが、先生にアドバイスをもらいながら、熱心に練習しました。

本番では、緊張しましたが、ゆっくり、落ち着いて聴く人々に伝えたいと思い、スピーチしました。結果発表で名前を呼ばれた時、とても嬉しかったです。大賞には及びませんでしたが、教育長賞を頂きました。この経験は自信になりました。今後もっと英語の勉強を頑張りたいです。

自由が丘小学校6年生 中西奏恵

練習の時、「もっと大きい声!ふりつけも大きく!」とお母さんに言われて、「こんなんやりたくない」と思ったりしました。

本番の日は、発表者がいっぱいいて、「表しようじょうは自分の物だ」と思っていたのに、やる気がいっきになくなりました。でも、夏休みにも先生に練習を見てもらっていたし、声もふりつけも大きく意識しました。けっか発表の時、2番目によばれました。その時は言葉に表せないくらいうれしかったです。来年もこの大会に出ようもらえるようにがんばりたいと思います。

別所小学校3年生 大西悠仁

2016/9/12・26・10/3

日本語教室 外国人の人権啓発意識調査



今秋、三木市では「外国人の人権実態調査」についてアンケートを実施することになりました。この事業に参画し、教室で関西国際大学サービスラーニングBを修得する学生10名が外国人学習者にインタビュー方式で聞き取り調査をしました。「やさしい日本語」に変換したアンケートに沿っての質問が進む中で、初めはぎこちなかった両者も終了時には笑顔で会話を楽しんでいる様子が見られました。

学生も外国人も、お互いに言葉が正確に伝わらない不自由さを感じながらも相手の気持ちを量り、心で語り合う交流術を体得する重要性に気づく良い機会となったことでしょう。

OXBRIDGE English Summer Camp

マックス ベイン

MAX BAYNEさんをお迎えして

2016/8/4 中央公民館

Chatting in English ～英語で話しましょう～に参加して



「オックスブリッジ英語サマーキャンプ」の一環として行われたChatting in Englishに参加しました。英国ケンブリッジ大学医学部2年生のマックス・ベインさんが講師、そして小学校ALTのレナードさんが補助をされました。

午前中は、講師による英語指導が行われました。もちろん、only Englishであり、私は神経を集中して講師の説明等に耳を傾けたものの、私のスキル不足から解らない部分もありました。しかし、グループ毎のテーマに即したディスカッションや発表などを通して参加者同士の交流もでき、

講師の丁寧なご指導により、有意義なものとなりました。午後のビール工場(神戸市北区)見学も楽しく過ごすことができました。

より一層の英会話習熟を目指している私にとって、このたびの機会は非常に刺激的であり、充実したものとなりました。

A1790 笹谷正康

2016/8/5 市民活動センター

キッズイングリッシュに参加して

8月5日、「キッズイングリッシュ」でマックス先生のお話を聞いたり、ゲームをしたりして楽しみました。イギリスの話の中で一番びっくりしたのが、学校ではしつ問や発表の時に、チョキの指で手をあげることです。イギリスと日本の手のあげ方がちがうことを初めて知りました。ふだん聞けないイギリスの事が聞けたり、いっしょにあそんだりしてとても楽しかったです。

自由が丘東小3年生 林 楽々香

スタッフ間の会話も受け付けでのやり取りも、活動の説明もすべて英語でした。こんなに英語を話したことがないくらいに、たくさん英語を話す機会がありました。始めは小学生たちに通じているか不安でしたが、コミュニ



ケーションがとれて楽しかったです。自分のキャラクターを考えて絵に描いて発表する活動では、小学生たちのサポートをして楽しかったです。自分なりに責任を持って任されたので、とても良い経験になりました。

中学生スタッフ
浅川長透・武田唯人
麻木里夏・大島かれん

第2回国際理解講座 シリア映画とトーク 共催 三田市国際交流協会

遠くて近い国、シリアと私たち

今回の国際理解講座は、三木市内にも多く在住しているシリア人にスポットを当てた一日となりました。映画『目を閉じれば、いつもそこに〜故郷・私が愛したシリア〜』の上映、藤井沙織監督のトーク、そして三木市のシリア人のインタビュー。



発表の様子



展示の様子 (三田市国際交流協会提供)

映画の中で印象に残ったことがあります。国外に逃れたシリア人は偽名を使うことがある、というのもまだ国内にいる家族に危険が及ぶから、ということです。酷な環境の中でも彼らが家族を思う気持ちに、銃声の聞こえない世界で平和な毎日を過ごすことができる有難さを忘れていたことを自省しました。また、シリア人のお話の中で、日本語が難しく困っている、という話題があり、日本語ボランティアとしてできることを精一杯したいという気持ちが一層強まりました。会場での写真展示で、際立っていたのは人々の笑顔でした。その笑顔を見ると、テレビで放送される爆撃の様子が遠い国で起こっていることとはとても思えません。



応援に来てくれた友人の皆さん
(日本語教室の学習者)

A1674
田代咲希子

2016 夏休み期間中

夏休みシリア人児童支援

シリアの子どもたちにとっては、日本での初めての長いお休みでした。夏休みのたくさん宿題に親子で何をどうしてよかわからない状況だったようです。そこで、学校側と相談の上、教室を開放していただき、主に国語・算数の学習をすることからはじめました。

日本語ボランティアの方々に協力を得て、11日間にわたって学習会を実施。少しずつですが、低学年の児童は学習する習慣などが身についたと思われます。高学年の児童は、ポスターや工作にも取り組みました。



A1658 山本 嘉子

多文化共生理解講座 外国人と異文化交流をしよう!

紹介者：ロシア / 黒田タチアナ
中国 / 楊婷・王夢

インドネシア / ソルミン・ムルドウンゴ
オーストラリア / ティモシー・チャンドラ

異文化交流に参加して



三木市の皆さんに自分の国の事を話す機会があつて嬉しかったです。参加者の皆さんはよく聞いてくれたので、発表するのは楽しかったです。

世界中のいろいろな国には、特徴的な方言・文化・伝統・習慣がありますね。参加者の方の異文化知識を少しでも広げられたら嬉しいことです。これから、私はいろんな文化について興味を持って学びたいと思います。

ティモシー チャンドラ
A1815 Timothy Chandra

- ロシア、オーストラリア、中国、インドネシア、それぞれのブースで驚きがありました。
- ・オーストラリアの人口…関西の人口と同じくらい。2300万人。
 - ・中国で春節の爆竹…昔、年(ねん)という化け物を爆竹を鳴らして追い払った事が起源。
 - ・インドネシア…多民族国家で、方言は700以上。同国人でも他の島に行くと理解できない。
 - ・ロシア…もともとスラブ民族の人が多く、自然を大切にす独特の文化、宗教があった。
- 今回、一番楽しかったのが、ロシアの伝統的なお守りでもある人形の作り方を教えてもらった事でした。可愛らしい布の人形が出来上がり、嬉しかったです。

A1299 木谷直子



ロシアの人形

2016/9/10

日本語教室 バス研修旅行 ～箕面市国際交流協会・民族学博物館～

外国人とはじめてのバス旅行



澄み渡る青空のもと、日本語教室の外国人学習者と日本語ボランティアの皆で、大阪方面へと向かいました。

箕面市国際交流協会が支援する外国人女性がシェフとなりランチを提供する*comm café(コムカフェ)でランチをいただいた後、comm caféを通して箕面市で暮らす外国人と市民の交流や、新しい環境で自立するまでのお話を聞きました。参加者からは真剣な質問や、笑いを誘う話もありました。なかには、「自国の伝統的なもので教室を始めてみたい!」という声も上がりました。

その後、万博公園内の国立民族学博物館で世界の国々の展示品を見学し、帰りのバスではビンゴゲームで盛り上がり、とことん楽しんだ一日でした。

*comm café…在日外国人女性が母国の料理を提供したり、交流したりするサロンのようなレストラン。

A1693 安川紀子

みっきい夏まつり



真夏のマハラジャン(アラビア語で祭りの意)。浴衣姿の日本語教室外国人学習者とその家族が、総踊りや花火を満喫しました。この日本文化の体験は、三木市を更に身近に感じ、社会参加の促進となったことでしょう。

金物まつりチャリティバザー&バザール

多くのボランティアさんに支えられ、市民の皆様からご寄付いただいた品物を販売し、202,681円を売り上げました。ご協力に心より感謝申し上げます。アフリカや東南アジアなどで支援活動をされているNPO団体を介し、必要とされている方々へお届けします。ありがとうございました。



COOL MIKI

2017年2月5日(日)

三木山森林公園「音楽ホール」

※申込・詳細は、協会までお問い合わせください。

第1部 英語 de 落語

開演:13:00~

会員:無料 ※要予約

一般:前売 500円

当日 1,000円



桂か心枝



第2部 日本語 de 発表

開演:15:30~ 入場無料!

語学ボランティア育成講座 翻訳・通訳編

~外国人の支援をしてみませんか~



日時:2017年1月14日(土)13:00~

※詳細は、協会HPをご覧ください。

予告 姉妹都市バイセリア市訪問団募集



50周年をバイセリア市で祝いましょう!

2017年4月(予定) ※詳細は、協会HPをご覧ください。

FMみっきい放送

76.1MHz

毎月第1火曜 12:15~

外国人の日本語スピーチ、子ども英語暗唱、多言語による情報提供(夏まつり・金物まつりなど)を放送します。お聞きください。



MIA事務所 市役所4階



学習や交流など多目的にご利用ください。

編集あとがき



協会設立20周年という節目の今年5月に事務所を開設し、早いもので半年経ちました。この6か月間に事務所を使用された方々はのべ900人。使用目的は、外国人の日本語学習、生活相談やボランティアのミーティングなどで、有効利用されています。また、外部の方々の訪問時には、落ち着いた雰囲気のため議論も進みます。更に、増員されたスタッフにより外国人住民が地域の方々と交流するように働きかけるなど、まさしく協会理念の一つでもあるVoluntary Good Will(自発的な善意)の下活動しています。

11月には、姉妹都市アメリカ・バイセリア市民訪問団と共に姉妹都市提携50周年を祝いました。今回の交流で、半世紀の歴史を再確認し、更に絆が強くなったと実感しました。来春バイセリア市に『三木公園』が開園し、両市の絆を象徴する石碑が設置されると聞いています。新たな50年への一歩となる再会が実現するよう祈願しています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

編集・発行

三木市国際交流協会

Miki International Association

〒673-0492 三木市上の丸町10-30(市民ふれあい部 市民協働課)

【TEL】(0794) 89-2318

【FAX】(0794) 82-9755

【E-mail】kokusai@city.miki.hyogo.jp

【HP】

